

子育てを支える「家族・地域のきずな」を深める先進的取組事例調査

- 概要版 -

(1) 調査の目的

本調査では、子育てを支える「家族・地域のきずな」を深めるために、住民が各世代、各分野にわたり主体的に取り組んでいる先進的な事例を全国各地から収集・整理・分析し、事例集の作成を行った。これにより、新たに活動に取り組む住民等へ情報提供し、住民による自主的な取組の促進を図ることをねらいとしている。

(2) 事例収集の方法

アンケート調査により、47 都道府県と 17 政令指定都市の担当課に対して事例の推薦依頼、回収を行った。また、家族・地域のきずなを深める活動に関する既存文献や資料等の収集から活動内容を把握し、最終的に 52 事例を選定して、代表者や関係者へのヒアリング調査を実施した。

アンケート調査は次のとおり行った。

実施時期：平成 20 年 2 月

調査方法：47 都道府県及び 17 政令指定都市担当者へ郵送配布・郵送回収

(3) 研究会の開催

本調査を実施するに当たって、有識者を委員とする研究会を 3 回開催し、事例地域に対するヒアリングのポイントや事例集作成のための方針について検討を行った。また、最終的に整理された事例集についての確認等を行った。委員は以下のとおりである。

荒井 嘉夫

みなみ野自然塾運営委員長

大沢 真知子

日本女子大学人間社会学部教授

牧瀬 稔

財団法人地域開発研究所研究員

(敬称略・五十音順)

(4) 家族・地域のきずなを深める活動の全体的な特徴

アンケート調査から活動内容を分析し、支援対象から「子育て母親支援」、「子育て父親支援」、「子ども交流体験支援」、「まちづくり・地域づくり支援」、「住民同士の地域交流支援」の 5 つの活動分野に分類した。特徴としては、乳幼児をもつ母親への子育て支援や、小中学校の児童生徒を対象とした子どもの交流体験支援、地域住民同士の心のふれあい交流を通して地域づくりを進めようとする活動が多かった。

(5) 事例に見られる特徴

子育て母親支援に見られる特徴

母親の負担を軽減するための子ども一時預かりや、子育て関連情報の提供、母親の孤独感に対する心のケア等、様々な活動が全国各地に見られる。その活動主体はNPO等の団体、任意団体などが多い。活動継続のポイントとしては、中心的な役割を担うリーダーの存在や関係者との人脈構築・協働などのネットワークづくりが挙げられる。

子育て父親支援に見られる特徴

子育てに参加する父親は増えてきているが、その割合はまだ不十分といえる。しかし、子育てのパートナーとしての父親の子育て参加をサポートしようとする動きが見られ、父親の参加意欲をかき立てる雰囲気づくりを大切にしていることが、活動主体の特徴として挙げられる。

子ども交流体験支援に見られる特徴

企業や任意団体等が中心となって、スポーツや地域の歴史、文化、伝統芸能等の紹介、農業体験等による食育活動などの体験学習を通して、子どもが地域社会で自立していくためのサポート活動が生まれている。また、登下校時の防犯活動や子どもの悩み事相談を行う活動も見られ、世代間交流や地域の多様な人たちが連携するようになっている。

まちづくり・地域づくり支援に見られる特徴

まちづくり、地域づくりには、まちへの期待感や価値観が異なる住民同士が、合意形成を図りながら進める必要がある。活動を通じて子どもを含めた多様な人たちが連携するようになったことや、世代間交流が深まったこと、結果として子育て支援の機運も高まったことなど、大きな効果がみられる。

地域住民の交流支援に見られる特徴

新しい住民の流入など都市化の進展によりコミュニティが希薄となり、活動継続に課題のある地域がある中で、身近な地域の環境保全や地域文化の土壌づくり、地域のコミュニティ再生などの活動を通じて、地域社会の子育て力の再生を図る動きが見られる。

活動を成功させるための要因

事例を分析すると、活動を継続させていくための工夫として、多くの事例で活動スタッフのモチベーションを高めそれを維持することが挙げられる。そのための必要条件として、まずは支援事業の利用者の満足度を高める取組が必要としている。

これは、利用者が満足することで活動主体も達成感を覚え、さらに活動に意欲が湧いてくるなど、活動継続のための好循環サイクルを構築する大きな要素と考えられるからである。

今後期待される活動形態

a 多様な主体との協働化

多様化する生活スタイルの中で家族・地域のきずなを深めていくには、それぞれに得意分野を持った多様な活動主体が、それぞれに責任領域を明確にして協働していくことが必要となる。今後、こうした多様な主体による協働化が期待される。

b 世代サイクルによる持続可能な社会形成

先行世代が自ら進んで次世代の子どもの世話や、母親への助言、ボランティア活動などの交流をとおして、価値あるものが一つの世代から次の世代へと受け継がれる。世代間交流による家族・地域のきずなづくりをサイクル化する環境づくりをしていくことで持続可能な社会形成にもつながっていき、今後活動の促進が期待される。

c 子どもや学生の自立した活動

これまで活動の受け手であった子どもや学生が、子育てやまちづくりを参画することで地域住民としての責任領域を知り、地域社会を構成する一員であることを自覚するような事例が見られる。地域にとっては大人と同様に重要な活動主体であり、今後、こうした子どもや学生の自立した活動が期待される。